

十時忠秀病院長の退職インタビュー**** Interview



第23号

2008年2月発行

佐賀大学医学部

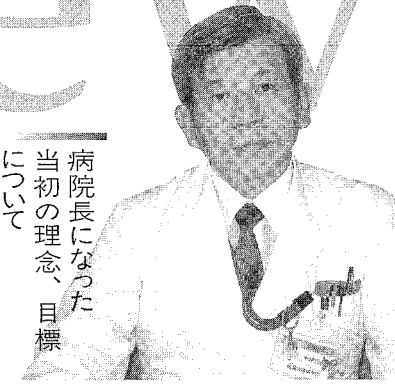
〒849-8501

佐賀市鍋島5丁目1番1号

http://www.saga-med.ac.jp/

新聞編集委員会

印刷/株昭和堂



病院長になった当初の理念、目標について

佐賀人学と佐賀医科大学の統合の時に、私が病院長になりました。当初の理念は「地域の中核として質の高い医療を提供する」「優れた医療従事者を育成する」「臨床医学の発展と医療技術の向上に貢献する」で、佐賀大学医学部附属病院に課せられた役割と考えていました。

病院長として平成20年3月で4年半になります。達成できた点と達成できなかった点があります。各診療科の先生、看護部、事務方のご協力があつたので前向きに改革できたというのを非常に嬉しく思っています。経営的には国からの交付金をもたらわずに黒字を達成できました。今までは年度末の3月までにお金を使い切らないといけませんでしたが、法人化したので黒字の分を持ち越すことができるようになったので人員を多く雇えるようになったり、高額な医療機器を購入できたりして患者さんのためになったのではないかと思います。また地域医療連携室、救命救急センター、ハートセンター、MEセンター、外来化学療法室、感染制御部、透析室の拡張をしたりして外部評価を受けることができました。

病院長をやったよかったこと、苦労したこと、印象に残る出来事
病院長を4年半の間やらせてもらうことができて、非常に感謝しています。病院長でないと経験できないことがあります。のでよかったです。従来は経営のことは考えなくてもいいと思っていました。大変勉強になったと思います。医師、看護師、事務方の計10人で月に2回企画室会議を開くことにより迅速に物事を決められるようになりました。そして決まったことを医師、看護師、事務方が協力してやっていくことができました。

苦労したことは佐賀大学と統合したために医学部の方針だけで決めることができなくなりました。以前と比べ、佐賀大学と統合したことでお金や人員の面で小回りがきかなくなりました。以前は病院への寄付金は医学部だけで使うことができましたが、現在は佐賀大学の本部へ納めなければなりません。いい面ももちろんあり、佐賀大学の先生と共同で有明海のことや医療機器などの開発を行う研究ができるようになりました。このように一緒に知恵を出し合えるということはいいことだと思えます。

印象に残る出来事は佐賀大学との統合、救急救命センターがオープンしたこと。また新卒後臨床研修制度が始まり、研修医の大学離れが増え、大学病院の医師数が少なくなりました。そのため、医師を地域へ派遣することが困難になりました。佐賀県の多くの病院で赤字になり、閉鎖しないといかない病院も出てきました。

佐賀大学医学部に勤務されている感想
佐賀大学医学部に勤務されている感想
佐賀で働き始めて27年目になります。佐賀医科大学が建設される予定地とその周辺は全て田んぼでした。道路はまだ農道でした。当然、開学の頃は食事や飲み会をするところはありませんでした。なので、教官と学生は一緒に弁当を食べ、将来を語り合っていました。開学の頃は九州大学とは違う大学をつくるのが目標で、何が違うかという点と赤ひげ先生のような医師を育てるということでした。佐賀大学医学部を卒業したという誇りを持つて大学にしたいと今でも思っています。

教育に関してはPBLやチューター制度など他大学にはないことをやってきていたということがあります。他大学にはないことをやってきていたということがあります。他大学にはないことをやってきていたということがあります。

私が思うことは常に新しいことを目指さなければならぬということ。開学当初から残っている教授は私だけになり、感無量です。

十時先生の趣味について
昔は山登りが好きで、月に1、2回は山に登っていました。今はそういう時間はなく、最近は何となく料理を作っています。食材を買ってきたりして気分転換になります。スパイスを考えたりして、タイカレーを作っています。読書や音楽も好きです。最近では本田静六の「一日一話」や宮本武蔵の「聖書からのメッセージ365日」を読みました。

学生に対するコメント
侵襲的な診療科に入る学生が少なくなっています。自分ではプロの医師だという意識をもって進んでほしいです。危険だからやらないというのではなく、危険でもあえてやるんだという意識をもってほしいです。外科や産婦人科などの医師が少なく、患者さんは困ります。せつかく医師になつたのだから、医師の目録ではなく患者さんが何を求めているのかを考えて、それに応えることができないような医師になってほしくないです。プロとしての誇りややり甲斐を感じてほしいです。今の社会を変えていくのは若い人達なので、私は若い人の感覚を大事にしたいと思っています。日本の学生は大人しいと

は食事や飲み会をするところはありませんでした。なので、教官と学生は一緒に弁当を食べ、将来を語り合っていました。開学の頃は九州大学とは違う大学をつくるのが目標で、何が違うかという点と赤ひげ先生のような医師を育てるということでした。佐賀大学医学部を卒業したという誇りを持つて大学にしたいと今でも思っています。

1/3で稼ぎ、残りの1/3はそれを生かして世の中に奉仕をする」ということです。だから退職後は佐賀の医療のために貢献したいと思っています。佐賀県知事から佐賀の医療のアドバイザー(医療政策担当)を頼まれてやることになりました。

佐賀県立病院の移転と運営、粒子線治療施設の導入、地域医療体制の整備などに関する佐賀県全体の医療に関するアドバイザーを任じています。最後の仕事としてはいいかなと思っています。

思います。社会に対する問題意識をもって挑戦してほしいです。部活を一生懸命やって、人間関係やコミュニケーションを学ぶことは大事だと思います。勉強だけしかやらないというのはどうかと思います。以前、医師というものは患者さんから尊敬される立場であつたと思いますが、最近の医師に対する評価は低くなったと思います。患者さんとの信頼関係を結ぶために学生時代に人間性や教養を養ってほしいと思います。人とのコミュニケーションを上手にとれることが大事だと思います。

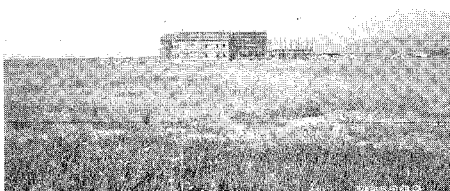
今からの佐賀大学医学部附属病院に期待すること
佐賀県の医療の中核的病院でありますので医療

自分一人だけでは何もできませんから人間関係を大切に、周りの人達と一緒に頑張ってほしいです。そして、周りの人達と一緒に頑張ってほしいです。そして、周りの人達と一緒に頑張ってほしいです。

最後に十時先生からコメント
自分一人だけでは何もできませんから人間関係を大切に、周りの人達と一緒に頑張ってほしいです。そして、周りの人達と一緒に頑張ってほしいです。そして、周りの人達と一緒に頑張ってほしいです。

北村
佐賀県の医療の中核的病院でありますので医療

追原
佐賀県の医療の中核的病院でありますので医療



建設中の佐賀医大 (1977年)



術場にて (中央が十時先生)



昨年末、空飛ぶホテルと形容される総二階建ての旅客機が華々しく就航した。人間はいつから空を飛ぶことを考えていたのか。世界初の飛行は紀元前5世紀ごろ、鳳を用いて行われたらしい。初めて飛行機を考えた人はレオナルド・ダ・ビンチであろう。彼が羽ばたき機やグライダーのようなスケッチを多数残していることはよく知られているが、それ以上の発展はなかったようだ。ダ・ビンチの空への思いは「憧れ」に過ぎなかったのかもしれない。

現在の飛行機は18世紀末、英国のジョージ・ケイリーによって考案された。彼は、揚力、推進力と操縦を個別に考えたが、これは、当時としては画期的なアイデアだったという。このアイデアが19世紀にはグライダーとして実を結んでいく。

1903年、ライト兄弟による有人動力飛行の成功は、空を飛ぶという理論が技術的な裏打ちによって具体化された瞬間であった。だが、多くの科学技術がそうであるように、飛行機の技術も軍事技術と表裏一体をなして発展してきた。ライト兄弟のわずかに10数年後の第1次世界大戦で軍用機が実用化され、2次大戦では飛行機は戦闘の主役となり、今日に至っている。

しかし、昨今多発する航空機事故や航空会社の管理体制、防衛省の問題などを考えてみると、本来人間の持つ英知と技術をその翼に秘めて大空に飛び立つ飛行機に託した先人の夢が違った方向に向かっている気がしないでもない。自らが生み出した科学技術や人間社会とその仕組みを常に点検し、修正してゆこうとする謙虚さと前向きな努力は忘れずにいたい。

第47回九州・山口医科学生体育大会

主管◎佐賀大学医学部

第47回九州・山口医科学生体育大会を開催するにあたり、今回佐賀大学医学部が主管となりました。この大会を開くために、多くの人が陰で支えています。

この大会についての日程や委員の方達を少し紹介して、皆さんに九山のことについて少しでも知って頂けたらと思います。(川良北島)

日程

平成20年3月26日(水)～5月6日(火) (*詳細は下記を参照)

運営委員

●役職 ●氏名

- 評議員長 内海 沙織
副評議員長 後藤 健太
副評議員長 吉田 知彦
副評議員長 窪津 祥仁
副評議員長 豊田有加里
副評議員長 エントリー 中尾 美咲

- 記念品 平田麻梨子
総務 田鹿佑太郎
宿泊・弁当 小池 健輔
保険 中司 交明
会計 幸田 彩未

- 広報・書記 副島裕太郎
松園 悠季
山縣 大樹
柴田 光史

また、今大会からは新たにフットサルが正式競技になりました。九山がますます盛り上がるのではと喜ばしく思います。

まだまだ先生方や競技責任者、会計の方にはご

評議員長より

第47回九州・山口医科学生体育大会(以下、九山)は、佐賀大学の総合主管のもと行われることとなりました。昨年、前回大会の産業医科大学から引き継いで以来、私たち運営委員はこつこつと準備を進めてきました。今年で47回目となる歴史の重み、参加人数が4500人を超えるという規模の大きさを背負いながら、大会を成功させることのできるのかという不安と戸惑いでいっぱいです。けれども、二度の評議員会を通して、少しずつ不安が期待に変わっていくのを感じています。

運営委員より

こんにちは、運営委員長の後藤です。今年で47回目の九山は、ついに佐賀で開催されることになりました。佐賀で開催するにあたって、まさか自分が運営委員長になるとは、と思いつつも、貴重な経験になることには間違いなく感じています。本番前の評議員会のほうも先日無事終了し、運営委員、競技の責任者ともども慌しく過ごし、準備のほうも完璧とまではいかないものの、着実に進んでいきます。

これからまだまだ皆さんの方の手を借り迷惑をかけるかと思いますが、より良い九山を目指してがんばっていきましょう！

運営委員の一言

中司：頑張ります！
豊田：これから準備が忙しくなっていくと思

すが、素敵な九山になるよう頑張っていきたいと思います。小池：宿泊担当の小池です。主な仕事は、各部活の宿泊先を手配することです。オアシスさんとも連携を取り合っ

たように思います。よろしくおねがいします。田鹿：懇親会(飲み会)の幹事は総務の仕事です。九山終わったら懇親会を楽しみましょう。平田：みんなで思い出に残る九山にしましょう。よろしくおねがいします。松園：そろそろHP更新しなくちゃなあ……

吉田：三回目の評議員会がテスト直後だったので、九山運営委員九か条一に九山、二に九山、三から八まで無くて九山だー!!

幸田：総務会計を担当することにになりました。幸田です。佐賀が主管という貴重な機会に巡りあわせて戸惑うことばかりですが、滞りない運営ができるように頑張りたいと思います。

副島：頑張ります！
中尾：エントリーきっちり頑張ります！
木下：九山が全競技成功するように頑張ります。窪津：がんばりたいと思います。山縣：頑張りたいと思

います。

第47回九州・山口医科学生体育大会 競技日程表

Table with columns for competition items (e.g., バレーボール, バスケットボール), dates (March, April, May), and venues. Includes a grid for scheduling.

むつころう祭を終えて

第29回むつころう祭も無事に終わり、今はほつと休んでいます。むつころう祭が大成をおさめられたのも、学校関係者やスタッフの方々の協力のおかげと深く感謝している次第です。今年のもつころう祭のテーマは「蒼魂」でした。若々しいパワーでなく、佐賀県全体を盛り上げたという思いが、活気づけたいという思いが、ありました。たくさんのお客様に楽しんでいただくのはもちろんのことですが、献血、骨髄バンク、アイバンク登録など、高校生向けの医学部の実習体験なども行いました。ゲストの方々も呼びました。テレビで活躍している若槻千夏さんや、アーティストの175Rを呼ぶことで、むつころう祭を盛り上げることができました。講演会では、医師として幅広く活躍されている鎌田實先生や、レスナード・カレット先生をお呼びして、現代の医学の現状を知ってもらうこともできました。また、バルーンを試乗した方もいました。バルーンに乗る機会がほとんどない地域の人々から、喜びの声をいただくことができました。バルーンについては、佐賀大学の気球部の方々に数ヶ月前から協力していただき、本当に感謝しています。このように、医学部で行われる学祭ですが、本庄キャンパスの学生や教職員にとっても、親交が深まったことをとてもうれしく思います。学園祭も終わりましたが、OBの立場になった今でも、この学祭で得たことは、他ではできないすばらしい経験でした。何事も、ひとつのことを何回も繰り返すことで、決して人間は一人だけでは成功できません。影ながら支えてくれる方がいなければ、自分一人ではたどり着けないことが多々あります。自分から、周りの人に支えられていくことを、将来、医師になったときも忘れずに生きていきたいと思



医学科2年 戸次 宣史

第30回むつころう祭に向けて

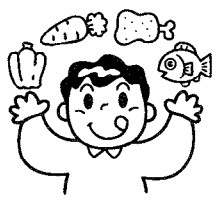
第29回むつころう祭も大盛況の中、幕を閉じました。委員長の松下さんから第29回むつころう祭の実行委員を指名されたのを感じます。まだ大学に入学してから1年しか経っていませんが、むつころう祭を1回しか経験していません。当時の私は、今思えば、むつころう祭について無知でした。しかし、約半年間の活動の中で、だんだんとむつころう祭の伝統や規模の大きさを知り、むつころう祭の素晴らしさを感じてきました。そして、多くの先輩方や同級生と協力して仕事をすることができ、多くのことを学ぶことができました。また、人間的に成長できた、とても充実した半年間だったと思います。そして今、松下さんからバトンを受け取り、今年の学園祭に向けて、私を中心とする6人の執行部は動き出しています。全国の医学部の中でここまで規模の大きな学祭はなかなかないのでは、と思ってしまうくらいむつころう祭は素晴らしい学園祭だと思っています。偉大な先輩方が築いてこられたむつころう祭の伝統をしっかりと受け継ぎながら、また新たなことにも挑戦しつつ、学園祭に足を運んでいただいた方々や先輩方が学園祭を十分に楽しんでいただけるよう、今年の学園祭を盛り上げていこうと思います。これから多くの困難が待ち構えていることですが、みんなで一致団結して、頑張りていきます。また、多くの方々の協力があるのむつころう祭だと思

います。みなさま、これからも協力のほど、よろしくおねがいします。(北島)

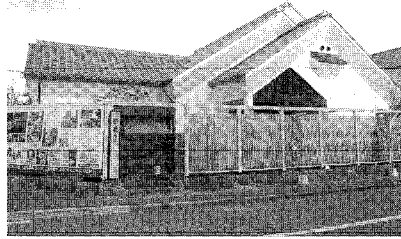
クーポン券
ワケありお買い得品、おまけ付

↑クーポンを頂きました。

こつがうまいよ 医大生



新・日本料理 櫓庵治(佐賀店)



やんぼんぐやぐくすくす、があります。閑静な住宅地の雰囲気、調和しつつも、一際目立つ白壁は、大切な人と大切な時間を過ごさせてくれる、そんな落ち着きを醸し出しています。

因みに、伊万里に1号店があり、佐賀店が2号店だそうです。伊

今回は、2006年12月吉日にオープンし、一周年を迎えた、「櫓庵治(佐賀店)」を御紹介します。

医学部キャンパスと佐賀駅の中間の神野西に位置し、近所には、井手ち

店内に「靴のまま!」と戸惑われる方も少なくないようですが、靴の脱ぎはきがない分、楽だという声もあるようです。席は、テーブル席と和洋の個室、掘り炬燵の部屋、カウンターがあります。

個室でゆつたりと寛ぐもよし、ダイニングでわいわい楽しく過ごすもよし、カウンターでスタッフとおしゃべりしながら食事というのもよし、ですね。

さて、櫓庵治は昼が11時半〜14時、夜が17時半〜22時(22時L.O.)となっていますが、昼と夜では雰囲気が変わって交わります。昼のお勧めは、味覚膳(¥1500)で、毎月新しい内容が楽しめます。

「お履物のままお上がりください」という説明を受け、席へと案内されます。きれいに掃除された

ます。味覚膳に、刺身・焼き魚・煮魚・天婦羅のいずれかを付けると旬感(¥1980)、鹿児島黒豚しゃぶしゃぶか佐賀牛しゃぶしゃぶを付けると四季彩(各¥1980、¥2300)になります。

この他、刺身膳・天ぷら膳・寿司膳の3種のお膳を選べ、また、いずれのお料理にも食後の飲み物と特製プチデザートがついてきます。お昼は、ご飯とお汁がお代わり自由で、それも嬉しいですね。

一方、夜は70種以上の一品料理と各種コース料理、その日のオススメ料理、そして、ビール・焼酎・ワイン・ウィスキー・カクテル(ノンアルコールカクテルもあり)・ソフトドリンクなど色々楽しめるドリンク類が、出迎えてくれます。コースは「あすか」、「さかの」、「なにわ」などがあり、毎月新しい内容が楽しめます。

モネやマネ、ルノワールの色鮮やかな絵画を彷彿とさせるものでした。ドビュッシーが生まれたのは1862年、フランスは1870年の普仏戦争、パリコミューンの時代を目前に控えていました。一家は貧しい暮らしを強いられながらも、居住先を転々とし、つづましく暮らしていたとい

から、あつためてくれそうです。「つついアイス」の塔(¥830)は、運ばれてくる途中で倒れる危険のある高さのアイスが登場します。甘いもの好きな方にはたまりませ

ん。このように、ご紹介したいメニューがあり過ぎて...。大切な人と美味しい食事をしたい、歓送迎会や接待に適する場所を探している、高級感ある所に行きたいが高すぎるのはちょっと...、カウンター類の刺身をはじめ、伊万里牛や鹿児島黒豚の料理、かまどで炊いた美味しい銀シャリなど、佐賀の土地を活かした食材をふんだんに用いて調理されており、どれも食べてみたいものばかりです。また、寒い季節に恋しい、あつたかき鍋や、「別腹」も忘れてはいけませんね。

10種もの鍋物(¥800)は、どれも「芯(心)」

負って12年間通い続けま

若い頃のドビュッシーは対人関係を上手く作れず、自分の意見を曲げるようなことは絶対にしたくないタイプだったようですが、こと恋愛に関してはフランスらしく情熱的で、愛娘ジュシュを含め、女性に歌曲やピアノ曲を捧げることもあったようです。

わが道をひたむきに歩くドビュッシーは、和声学が得意で、どうしても納得できない自分の感性に目覚めていき、ついにピアノ演奏家としてよりも作曲家になる道を選びます。このときから彼は55歳で亡くなるまで、たく

さん、の歌曲、ピアノ曲、室内楽曲、管弦楽曲を世に送り出しました。作曲家には直接会えなくても、「のためカンタービレ」でも演奏されたピアノ曲「喜びの島」や「ベルガマスク組曲」管弦楽曲「海」(ドビュッシーは作曲家でなければ船乗りになりたかったらしい)、「牧神の午後への前奏曲」など、作曲家の思考や人生が詰まった音楽を私たちが今でも聴くことができます。

独特の世界観を崩さなかったドビュッシーの虜になった人は数知れず。違う世界を覗いてみたい方はぜひ一度聴いてみてはいかがでしょうか? (小池)

作曲家の肖像

ドビュッシー



Claude Debussy (1862-1918)

マリ・アントワネットが嫁いだ華やかな王室可愛らしいドルチェ、印象派に代表される色彩豊かな絵画、たぐさんの芸

術家が憧れたパリといえど、夢見る国フランスです。今回スポットを当てたいのはそんなフランスが生んだ作曲家「ド

ビュッシー」。

ドビュッシーの音楽はとにかく異色な作曲家によって曲に個性が出るのは当たり前ですが、始めてドビュッシーの音楽を聴いたときの新鮮な驚きは今でもはっきりと思い出すことができます。まるでおとぎ話の国に一人放り込まれたような、周りの世界から足元が、壁がずれていくような...なんと不思議で、でも幸福な感覚でした。それまでの主な作曲家たちが築いてきた伝統とはまるで違

いながら自由な和声とまばゆいばかりの色彩感覚を取り入れて息を吹き込まれた作品たち。それらはまた同時代の画家

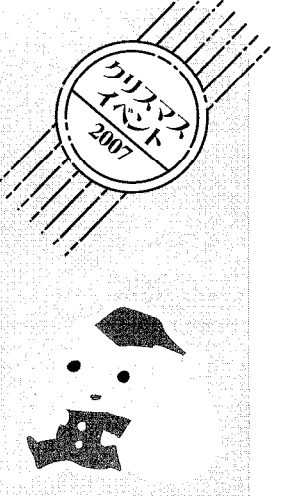
新聞編集委員

- 植原恒彦教授(編集委員長)
池田豊子教授、内川洋子准教授、尾崎岩太准教授
河田康祐、田中 恵(医6)、竹内美奈子、竹下綾子(医5)、北村浩晃、小池このみ、日高 駿、森永久美子(医4)、神谷雅明、川良智美、北島慶子、笹 智樹(医3)、平川睦美、村田典子(看3)、小野行秀、柏原悠也、加藤圭悟、榎戸 翠、太田美穂、徳田悠希子、横山加奈子(医2)、棚町豊二(マルチメディア支援室)、東家廣典、荒川孝範(学生サービス課職員)
- 要望などの連絡先
学生サービス課学務系係 荒川 arakawat@cc.saga-u.ac.jp



12月12日(水)に行われました。キャロリングは毎年12月に合唱部主催で行われている恒例行事で、有志の学生が賛美歌を歌いながら、病棟を歩きます。照明が消されて、キャンドルを持った白衣の集団が移動すると、病棟はいつもと違った幻想的な雰囲気になりました。階段の上り下りや歌いながら移動するので、終わるころには一同息も絶え絶えでしたが、「有り難いことです」と拝みながら熱心に聞いてくださる患者さんや、聞きながら涙を流してくださる患者さんもおられ、今年も大成功に終わりました。(日高)

キャロリング



SMILE企画「クリスマスコンサート」

12月20日、Xmasコンサートが大学病院のロビーで行われました。患者さんにロビーまで降りてきていただき、クリスマスにちなんだ音楽や手品を楽しんでいただくという企画です。今年は「笑いのセラピー」による手品に始まり、「佐賀女子高合唱部」による本格的な合唱と「佐賀大学室内楽部」によるXmasメドレーが披露され、患者さん、病院の職員、ボランティアの学生が一緒になって会を盛り上げました。(小池)



編集後記

今年も間もなく卒業式、お別れの季節です。今度はいつお目にかかれるのか...、立派な医師・医療人となられていることを期して、今は再会を待ちましょう。思い出は少し置いて行って下さい。戻って来られた時に、温かく迎えます。(植原)